日本学ひろば 88話

所　功著

「日本学」への誘ひ
社頭講話の参考にも

東北福祉大学
名誉教授
髙橋美由紀

日本法制史の研究者として名高い所功先生の随筆集『日本学ひろば　88話』が刊行されました。所先生といへば、皇室の制度や儀式研究の第一人者であり、このたびの御大典においても、学界では勿論、マスコミ等においても大活躍され、日本の歴史と文化における皇室の意義を広く国民に啓発する上で、たいへん大きな役割を果たされました。しかし、テレビ等で拝見するお姿は、間もなく傘寿をお迎へになるとは到底思へないほど若々しく、かつスマートであることに驚かされます。その祕密の一端は、「日本学」といふ学問そのものにありさうです。本書は、その分かりやすい「日本学」の入門書であると同時に、読者の心の栄養剤、若々しく老いるための祕伝の書と言っても過言ではありません。

先生が説かれる「日本学」とは、私流に解釈するならば、「日本の長い歴史と文化のなかで培はれてきた価値観やそれに基づく行動様式についての総合的な学問」とでも言ふべきものかと思はれます。本書では、皇室関連の具体的な儀礼の姿や神社の祭り、歴代天皇の御事績やお言葉、歴史上の著名な人物の言動や業績等々を材料に、日本人が何を拠り所とし、何を求めて行動してきたかが分かりやすく説かれてゐます。さらに、しばしば言及されるのが、故郷との関はりや故郷への熱い思ひ、また、家族や祖先への率直な感謝の念です。これらすべてが、先生の説く「日本学」そのものであり、その実践なのです。

全篇に流れてゐるのは、自らを育んだこの国への全幅の信頼であり、その根柢にあるのは、君民一体となり助け合ひ励まし合ってきたこの国の歴史的有り様への確信です。この先生の「日本」への信頼の念は、今、この国に生きる者として自らが為し得ることを精一杯やり尽くさう、といふ先生御自身の前向きな姿勢と不可分の関係にあるやうに思ひます。その意味では、感謝と報恩こそが「日本学」の精神と言へませう。

「日本学」が私たち生活者にも身近なものであることは、本書の「あとがき」の中で、『お互いさま』『おかげさま』という日本人的（あるいは真の人間的）心遣いを、日常的に実践することも、身近な『日本学』ではないかと思われます」と述べてをられることからも分かります。

本書は一般向けの随筆集で、たいへん読みやすいものです。御社頭での講話の材料としても役立つでせうが、何よりも、自らの生き方を振り返るための最良の手引きとなるに違ひありません。ぜひ、御一読をお勧めします。

〈本体1300円、コミニケ出版刊。〉